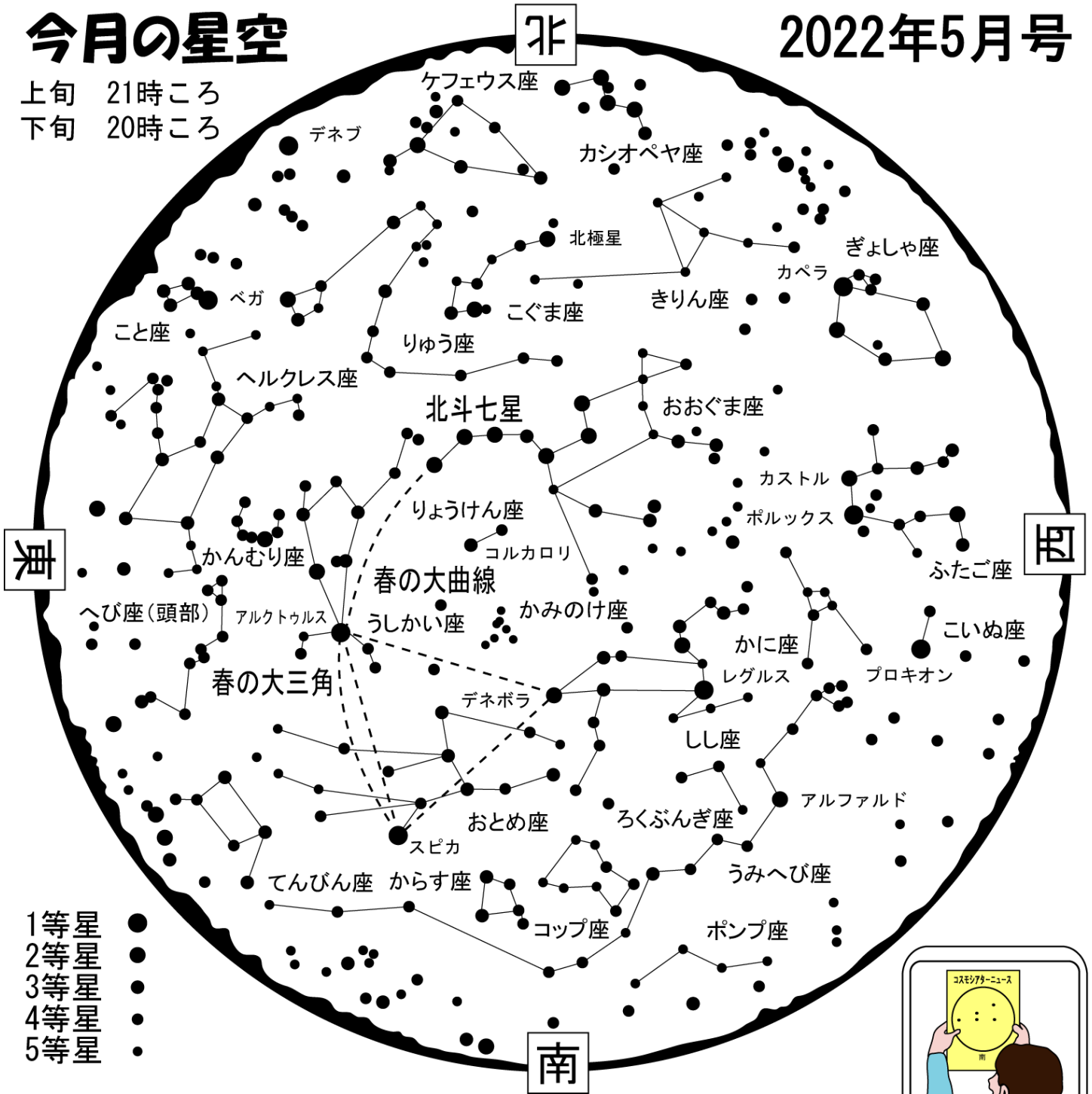


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年5月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



自分の向いている方向を下にして、見てください

水星：初旬の夕方、西の低い空に見えます。明るさは1等星です。2日に月と並んで輝きます。
金星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-4等星です。1日に木星とぴったり並んで輝きます。
火星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは1等星です。月末に木星と並んで輝きます。
木星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-2等星です。1日に金星とぴったり並んで輝きます。
土星：明け方前に、南東の空に見えます。明るさは0.5等星です。

今月の月の満ち欠け

新月：1日(日) 上弦：9日(月) 満月：16日(月) 下弦：23日(月) 新月：30日(月)

1日(日)、金星と木星が大接近

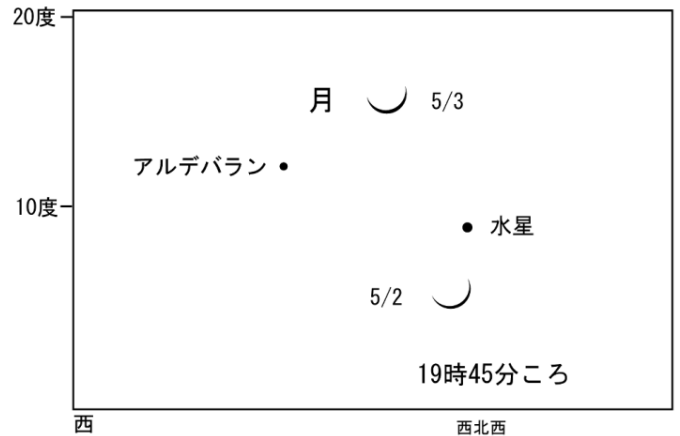
1日(日)の明け方の午前4時ころ、東の低い空で、金星と木星がぴったり並んで輝きます。金星は星の中で一番明るく、木星が二番目に明るいので、すぐに分かります。なお、前後の日もかなり接近していますので、早起きをしてご覧ください。ちなみに、4月30日(土)までは、金星が先に昇り、2日(月)より後は、木星が先に昇るように順番が変わります。

2日(月)、水星が月と並んで輝く

2日(月)の夕方、西から少し北寄りの西北西の空で、月と水星が、並んで輝きます。高さが低いので、簡単ではありませんが、天気が良いければ、肉眼でも見つけることができるでしょう。

右の図は、夕暮れが残っている、19時45分ころの様子です。2日は細い月の上に水星が輝きます。3日(火)は、月が水星の上に移動しますが、この日も月が目印なり見やすいでしょう。

ちなみに、水星の少し左側に、おうし座のアルデバランが輝いています。ほぼ同じ明るさですので、間違えないようにしてください。なお、肉眼で見にくいときは、小さな双眼鏡を使うといいでしょう。

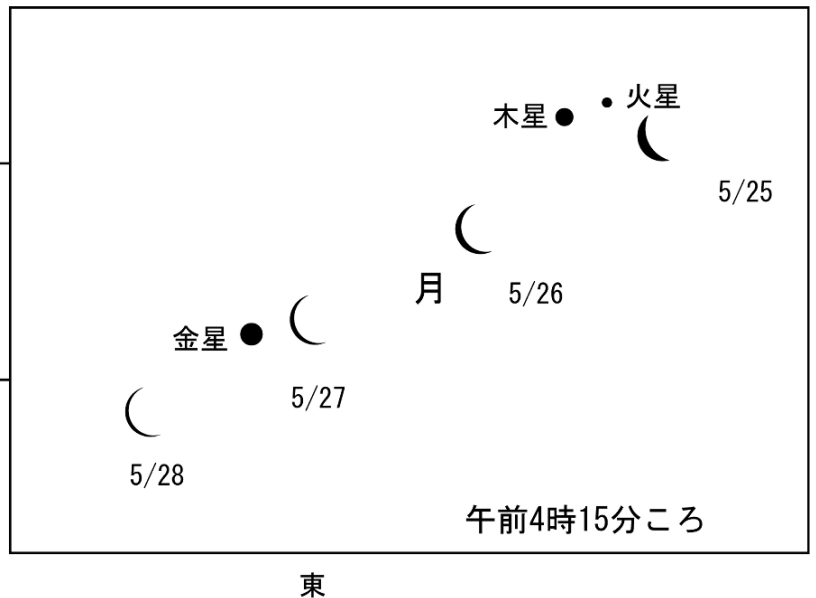


下旬の明け方、月と惑星が並んで輝く

明け方の空に、3つの惑星が集合し、25日(水)から27日(金)にかけて、月が並んで輝きます。

まず、25日、月と木星、火星が並びます。月の左上に輝く明るい方が木星、少し暗めのオレンジ入りの星が火星です。そして、27日は、月と金星との接近です。月のすぐ左のたいへん明るく輝く星が金星です。金星は、極端に明るい星ですので、たいへん目立つでしょう。そして、28日(土)は月の高さが低く見つけにくいかもしれませんが、金星の左下に見えるかもしれません。

ところで、25日の明け方は、木星が火星の左側に輝きます。しかし、29日(日)から、30日(月)ころ、木星と火星がぴったり並んで輝きます。そして、31日(火)以降は、木星が火星の右側に移動します。このように、月末は、月と惑星の接近とともに、惑星同士の接近もありますので、時間があれば、連続で観察してみてください。ただし、日の出が早いので、見ごろは午前4時すぎになります。



春の星を見つけよう

春の夜空には、「春の大三角」と呼ばれる大きな三角の形に並ぶ星があります。その中で最も明るい星が、「うしかい座」の「アルクトゥルス」です。

「アルクトゥルス」は、21時ころですと、東の空高く見えるいちばん明るい星です。この星を目印に、南の空を眺めると、右下に「おとめ座」の「スピカ」、右側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

右の図は、21時ころ南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。またちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることとなります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分りにくいこともあります。

